

中学校特別支援学級における音楽療法的視点を取り入れた 「自立活動」の展開

有田川町立八幡中学校：河島幸子

有田川町立吉備中学校：南雄次郎

和歌山大学教育学部：上野智子（研究代表）・菅 道子・山崎由可里

【はじめに（研究の趣旨）】

本取り組みは、音楽療法的視点を取り入れた自立活動での取り組みをととして、特別支援学級における授業づくりの可能性や支援あり方について大学教員と公立学校教員の連携によって実践・検証しようとするものであり、2013（平成 25）年度より継続して行っている。

本取り組みのきっかけとなった特別支援学級の生徒達は、それぞれの障害の特性や発達の遅れ、生徒自身の障害受容の困難さなどから、学習面での躓きや通常学級の生徒らとの対人関係などに問題を抱え、中学校生活に馴染めずにいた。このような状況に対して当時の担任（河島）は、学習面の問題を解決する以前に、生き生きとした「学校生活を送るための基盤」づくりが何よりも大切であると感じていた。担任によれば、「学校生活を送るための基盤」とは、自己肯定感や心理的安定、自己表現、仲間づくりなどを指す。このことを、作物を育てる際に重要となる土づくりに例えて「心の耕し」と表現した。そして生徒たちが音楽を好んでいたことから、音楽を用いて「心の耕し」ができるのではないかと考え、本取り組みが開始された。筆者らは、生徒たちが音楽に興味をもっていること、そして心のケア＝「心の耕し」を目的のひとつに含む音楽療法に着目し、その理論と技法を援用した音楽活動を「自立活動」において考案・実施することにした。

「自立活動」は、「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培うことを目的とした特別支援教育の指導領域の一つである。本取り組みを「自立活動」で行った理由として、「自立活動」で示されている 6 区分 27 項目と音楽療法における音楽の機能において共通点が多いこと、さらに本活動の目的である「心の耕し」とも合致しているが挙げられる。

以上より、「自立活動」において音楽療法の考え方や手法を取り入れた音楽活動を実施した本取り組みは、通称「音楽の時間」と呼ばれるようになった。「音楽の時間」では、オープニング、クールダウン、エンディングといった固定された活動の間に、歌唱、創作、身体表現、合奏など生徒たちが自由に選択できる活動を設定している。そして、音楽療法実践においても重視される以下の 5 点①この場において必要不可欠な存在としての「個人の承認」、②生徒や教員としてではなく一人の表現者としての「対等な関係性」、③一人ひとりの『いま・ここ（here and now）』の表現の重視、④生徒の日々の様子やそれまでの「音楽の時間」での様子などの背景を踏まえた「生徒一人ひとりへの配慮」、⑤非言語的な関わりを促す「音楽によるコミュニケーション」を音楽療法的視点とし、活動を考案・実践する際には留意している。また、活動に適切な楽器や楽曲の選択、模倣や即興の多用、表現するタイミングや表現しないことの尊重なども音楽療法の手法や考え方から援用している。

今年度も、昨年度と同様に八幡中学校と吉備中学校と連携して「音楽の時間」を実施した。八幡中学校の取り組みでは、昨年に引き続き音楽劇の考案と文化祭での発表を行った。また、吉備中学校の「音楽の時間」では、クリスマスにちなんだ創作活動を行った。

【研究の経過】

1. 有田川町立八幡中学校

(1) 参加者

今年度の参加者は、以下のとおりである。特別支援学級において、新入生はいなかったため、参加者に変更はない。また、第1回には石垣中学校から特別支援学級の生徒1名と担任が来てくださった。

◆八幡中学校：

八幡中学校特別支援学級生徒…5名（2年…女子：1名、男子：2名）（3年…女子：1名、男子1名）
特別支援学級担任…1名 保護者…1名

◆石垣中学校

石垣中学校特別支援学級…1名（1年）
特別支援学級担任…1名

◆和歌山大学：

和歌山大学教員…3名 大学院生…2名 学部生…1名

(2) 時間・場所

昨年同様に、「音楽の時間」は1時間である。場所は、八幡中学校の最上階にある多目的室である。絨毯敷きなので、座ったり寝転がったりすることが可能である。また、廊下側はガラス窓になっており、室内で活動している様子がわかる造りとなっている。

(3) 今年度の活動

今年度の「音楽の時間」は、2020年1月末までに計3回だった。第1回と2回は、これまでと同じく「音楽の時間」の後には一緒に昼食をとりながら歓談する機会を設けているが、第3回は午後に行ったためそうした時間はとっていない。

表1は参加者の内訳と、プログラムの概要である。この他に、打ち合わせ（10月1日（火）@八幡中学校）と演奏補助として文化祭（11月24日（日））に参加している。また、12月6日（金）には「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）2019年度連携型共同研究助成」事業の共同研究（代表：大阪市立大学 沼田里衣氏）として、金屋・清水地区特別支援学級合同学習会においてWSを行っており、八幡中学校の生徒たちはこの活動にも参加した。

表 1 2019 年度 八幡中学校での活動

	第 1 回	第 2 回	第 3 回
年月日	2019 年 6 月 17 日 (月)	2019 年 10 月 29 日 (火)	2019 年 11 月 12 日 (火)
時間	11:30～12:30	11:25～12:10	15:00～16:00
参加者	八幡中学校： 生徒…5 名 担任…1 名 保護者…1 名 石垣中学校： 生徒…1 名 担任…1 名 和歌山大学： 教員…2 名 大学院生…2 名 学部生…2 名 計 15 名	八幡中学校： 生徒…5 名 担任…1 名 和歌山大学： 教員…3 名 計 9 名	八幡中学校： 生徒…4 名 担任…1 名 和歌山大学： 教員…2 名 計 7 名
内容	◆オープニング ◆自己紹介《Let's introduce!》 ◆ピアノの連弾を聴こう！ フォーレ《組曲「ドリー」》作品 56 ◆歌おう音楽 《夏の思い出》《浜辺の歌》 《エーデルワイス》 ◆ドラムサークルに挑戦しよう！ ◆エンディング	◆『紙すきのうた』の発表（朗読） ◆『紙すきのうた』で音楽づくり①	◆『紙すきのうた』の練習

(4) 活動の経過

八幡中学校特別支援学級は、昨年度からメンバーが変わっていないこと、何より担任の学級づくりに対する熱心な取り組みによって生徒同士の仲もととても良く、安心して活動に取り組むことのできる雰囲気が出来ている。第 1 回は、大学院生、学部生が参加してくれたことで、連弾やドラムサークルといった活動にも取り組むことができた。また、この回のみであるが石垣中学校からも生徒 1 名と教員 1 名が参加してくださった。慣れない場所に加え、初めて出会う人達と一緒に活動することについては、かなり緊張したようであったが、「たいこを叩くのは楽しかった」との感想をいただいている。また、八幡中学校の生徒たちは石垣中の生徒を歓迎しており、活動後の感想文には“石垣中の生徒と一緒に活動できて楽しかった”という内容がどの生徒にも含まれていた。特にドラムサークルの活動が楽しかったようで、「みんなで太鼓サークルをやったのでまたやりたいです。楽しかったです」「ドラムをたたいて楽しかった」「いちばん楽しかったのは（石垣中の生徒の）太鼓がとても上手だったことです。またやりたいです」といった感想が寄せられた。

第 2 回、3 回は、昨年と同様に文化祭で発表する音楽劇の音づくりと練習に充てた。今年度は、担任のリクエストで、地元の伝統工芸品であり、昭和 63 年には和歌山県知事指定郷土伝統工芸品にも指定されている保田和紙を題材に音楽劇を行うことにした。その際、どのような経緯で紙漉きの技術がこの地に入ってきて地域の産業になったのかという経緯を描いた絵本、『紙すきのうた 紀州の紙すきの村』（木暮正夫・作、中山正美・絵）をもとに、保田和紙の工房が入っている「体験交流工房わらし」の職員によって作られた紙芝居『紙すきのうた』を用いた。

「音楽の時間」では、「体験交流工房わらし」で職人が紙をすく様子を動画撮影させてもらい、その様子を生徒達と一緒に観ながら音づくりを行ったほか、清水地区に伝わる仕事唄である《紙漉き歌》と《紙素打ち歌》を用いて、オスティナートを用了アンサンブルを考え、練習を行った。しかし、「音楽の時間」は、時間の関係から、音づくりにおける楽器の選定や奏で方について一緒に試行錯誤したり、アンサ

ンブルの基本的な枠組みの提示を示すに留まった。そのため、その後は担任と生徒たちが練習を重ねることで作品に仕上げていった。例えば、音づくりでは、何度も動画を見ながら水の音の緩急や、紙をスから剥がす際の動きなどを表現するために音色、リズム、間などを意識しながら取り組んでいた。さらに生徒達は、紙芝居の各場面を和紙のちぎり絵で表現することにも挑戦した。これについては、美術教室の高木先生にアドバイスを頂き、紙芝居の絵をトレースした上で、ちぎり絵を行うという方法をとった。当初は保田和紙のみで作成する予定であったが、着色しにくいことから、保田和紙は部分的に使用しつつ、色和紙や絵の具を用いて作成した。生徒の中にはこの作業に没入する者もあり、想像以上に素敵な作品に仕上がったことに担任も驚いていた。出来上がった作品は、撮影してパワーポイントに張り付け、本番ではこれらをプロジェクターに映しながら音楽劇を行った。

文化祭当日は、1名欠席したものの、無事に披露することができた。八幡中の文化祭は地域の人々もやってくるイベントであり、今年は100名を越えた。担任によれば、特別支援学級の生徒の発表についても感想が寄せられており、「自分が子どもの頃、唄っていたのと同じやな」(地元の民話保存に熱心な地域の人)、「中学生が一生懸命演奏して唄っている姿、うれしいね」などの声があったとのことである。(地元の高齢者)。昨年度に引き続き、地域の文化を題材にしてきたが、こうした取り組みは、その土地の文化を共有しながら様々な人と関わることができるのだと改めて感じるようになった。

写真左) 映像を見ながら音づくりをする生徒たち



写真右) 生徒たちが制作したちぎり絵の一部



1. 有田川町吉備中学校

(1) 参加者

今年度の参加者は、以下のとおりである。吉備中学校は知的、肢体、情緒の3学級があり、すべてのクラスが参加している。

◆吉備中学校：

吉備中学校特別支援学級生徒…9名 (1年…男子：2名) (2年…男子3名)
(3年…女子：1名、男子：3名)

特別支援学級担任および支援員…4名

◆和歌山大学：

和歌山大学教員…3名 大学院生…2名

(2) 時間・場所

昨年同様に、「音楽の時間」は2時間である(途中休憩あり)。場所は、吉備中学校の1階にある多目的室である。また、廊下側はガラス窓になっており、室内で活動している様子がわかる造りとなっている。

(3) 今年度の活動

今年度の「音楽の時間」は、2020年1月末までに計1回行った。第2回を2月～3月ごろに行えればということで現在調整中である。表2は参加者の内訳と、プログラムの概要である。

表2 2019年度 吉備中学校での活動

第1回	
年月日	2019年12月17日(火)
時間	10:30～11:15 11:25～12:10
参加者	吉備中学校：生徒…8名 担任・支援員…4名 和歌山大学：教員…3名 大学院生…2名 計17名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ◆オープニング ◆自己紹介《Let's introduce!》 ◆歌おうクリスマスの歌 《おめでとう クリスマス》《ひいらぎ かざろう》《きよし このよる》《ジングルベル》 ◆〇〇 オン ステージ！ ◆動いて表現しよう ◆クリスマスツリー ミュージック をつくろう！ ◆エンディング

(4) 活動の経過

今年度は、時期的にクリスマスが近いこと、そして和歌山大学から来るメンバーにとは初めて会う生徒もいたため、季節を意識した活動だけでなく、なるべく互いを知り合えるような活動を含めた。また、担任から3年生の生徒が本活動でぜひ披露したい踊りがあるのでその時間を作ってほしいとの提案があった。この生徒は、音楽が好きでこれまでの「音楽の時間」も楽しそうに参加している。生徒が希望したのは、YouTubeの《花が咲く》に合わせて自分で考えた創作ダンスだった。生徒の柔らかい動きと優しい表情には引き込まれるものがあり、参加者は思わず見入ってしまうか、歌詞を口ずさんでしまうような素敵なお発表だった。なお、当日は参加者に装飾が施された歌詞カードが配られたが、それは同じクラスの2年生の生徒がパソコンで作成したものであった。

また、季節にちなんだ活動として、タペストリーのクリスマスツリーのオーナメントとして、直径10cm程度の円に切った画用紙を生徒に配り、それぞれ好きな絵（飾り）を書いてタペストリーに貼ってもらい、それに合う音を考えて一緒に合奏するという活動を行った。合奏する際は、ファシリテーターがタペストリーの様々な場所を指す。オーナメントが指されれば、そのオーナメントを描いた生徒が考えた音楽を披露し、幹や葉、そして頂上にある星が指されれば、トゥッティ部分として予め決めていた言葉や歌を、全員で唱えたり歌ったりした。また、先生方や大学院生には適宜楽器を配って伴奏をお願いした。活動後に行った大学院生との反省会において、手順や配慮等について改善点がいくつか出てきたものの、生徒達の感じ方や表現の仕方を尊重することで、表現しやすい状況が生まれやすいのではないかという話になった。

写真) 創作ダンスを披露した
生徒の様子



後日、参加した生徒と先生方からは下記のような感想が寄せられた（抜粋）。

生徒

- ・ぼくは、1年生ではじめて体験して、たのしかったです。それと、いままで見たこともない楽器があったのでたのしかったです。またきてください。
- ・みんなのりのりでたのしかったです。ダンスをおどってみんながたのしんでくれてうれしかったです。クリスマスツリーでつくったおんがくがすごかったです。
- ・はじめてさわった楽器があつてずっと見ていたと思いました。あと音でひょうげんをするこれがしんせんでおもしろかったです。もっとがっきを知りたいと思いました。
- ・クリスマスツリーの楽譜をつくって演奏したことが特に良かったです。クリスマスをイメージした音楽で早いクリスマスの気分にあつて良かったです。本当にありがとうございました。

教員

- ・とても楽しく参加させて頂きました。音楽が始まると、だんだんと場の空気が和んでいくのが手に取るように感じられました。改めて音楽の素晴らしさを感じました。最後のツリーを飾って一つの曲を全員で作り上げられた事はとても驚きで達成感があり、子供たちも満足そうで良かったです。
- ・体を動かし、五感を使い生徒たちも私たちもとても楽しく参加できました。
いろいろな楽器を使つての音づくりはとても新鮮でした。次の機会を楽しみにしています。
ありがとうございました
- ・クリスマスということでプレゼントの絵をかき木にそれを飾り音楽をつくるといった授業が新鮮でした。また季節感も味わうことができ最高でした。全員の生徒が笑顔で頑張っていて良かったです。

【おわりに】

本連携事業を始めて今年で7年目になった。1年ごとに教員も生徒も含め参加者が変化する学校という場において、ここまで継続できたのは、特別支援学級担任の先生方のおかげであると言っても過言ではなく、本取り組みのきっかけを作ってくださった河島幸子先生、そして河島先生が転任された後にも「音楽の時間」が継続できるよう引き続き連携をしてくださった南雄次郎先生、松本久三先生に心から感謝したい。年に数回しか行くことの出来ない状況において、生徒たちがこの時間を楽しみしてくれたのは、先生方のおかげである。そして、「心の耕し」として、生徒達が安心できる環境の中で試行錯誤しながら表現できる場をつくること（土壌づくり）の大切さを、7年目を迎えた現在においてもひしひしと感じている。地道な取り組みではあるが、今後も一緒に活動し意見を交流させながら、それぞれの「音楽の時間」を育んでいきたい。